

序

地上デジタル放送時代を迎えた。デジタル放送は、防災情報の提供面でデータ放送の活用や携帯電話への配信など新たな可能性を拓くものである。現在、その可能性を巡り種々の試みが展開されているが、どのような情報をどのように提供するかは体系的に検討される必要がある。

そこで、日本災害情報学会は、学会として初めての研究会として「デジタル放送研究会（代表 藤吉洋一郎大妻女子大学教授）」を2004年11月に発足させた。本研究会は、デジタル放送の特性を活かしたどのような利用手法が考えられるかを調査研究し、来るべきデジタル放送時代の放送サービスのあるべき姿を研究するものである。より具体的には、防災情報を広く人々に伝えるために、とりわけ、災害時の避難を効果的にするには、避難勧告などの防災情報をもっと的確に、迅速に伝えるうえで、どのような可能性があるのか、またさらに、日ごろから、国民の自助に繋がる防災放送の役目を果たせるようにするには、どのような課題があるのかを明らかにしようとしてきた。日本災害情報学会は、適切な災害情報の生産、伝達、利用を通じて災害による被害を軽減することを目的として設立された学会であるが、本研究会の活動は、まさに学会の趣旨に適うものであるといえよう。

幸いに、本研究は(財)放送文化基金の研究助成を受け、また参加会員の精力的な研究活動により、ここに「デジタル放送の特性を活かした災害情報の伝達のあり方研究会（デジタル放送研究会）」の「活動報告」をとりまとめることができた。関係各位のご協力・ご尽力に感謝するとともに、この報告書の成果が社会で広く活用され、一人でも災害の被災者が少なくなることを願うものである。

2007年3月31日

日本災害情報学会 企画委員長

東洋大学教授 田中 淳